

| | | | | |
|--------|-----|-------------------------------------|--------|-------------|
| 総合計画体系 | 政策名 | IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》 | 施策主管課 | 社会教育課 |
| | | | 施策統括課長 | 小川 浩 |
| | 施策名 | 24 生涯学習の推進 | 関係課 | 地域振興課,学校教育課 |

1. 施策の目的と指標

| 目的 | ①対象(誰、何を対象としているのか) | | 対象指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|-----------------------|-----------------------|---|--|----|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 市民 | A | 人口 | | 人 | 実績 | 42,428 | 41,917 | 41,159 | | |
| 見込 | | | | | | | | 41,159 | 41,032 | 40,650 | 40,323 |
| 実績 | | | | | | | | | | | |
| 見込 | | | | | | | | | | | |
| 生涯を通じて、人生を豊かにするために学ぶ。 | ②意図(どのような状態にするのか) | | 成果指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
| | 生涯を通じて、人生を豊かにするために学ぶ。 | A | 生涯学習活動を行っている市民の割合 | % | 実績 | 35.6 | 39.6 | 34.2 | | | |
| | | | | | 目標 | | (35) | 36.0 | 37.0 | 38.0 | 39.0 |
| | | | | | 実績 | | | | | | |
| | | | | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由) | | | 生涯を通じて人生を豊かにするために学ぶ状態とは、日頃から学習活動を行っている状態であると考えた。 | | | | | | | | |
| 成果指標の測定企画(実績値の把握方法) | | | 市民アンケート調査で把握「あなたは、自らの教養を高めるために日頃から学習活動を行っていますか？」 | | | | | | | | |
| 目標設定とその根拠(基本計画策定時) | | | A)日頃から学習活動を行っている市民の割合 成り行き値は、近年の傾向から同程度で推移すると考える。目標値は、社会教育コーディネーターや地域自主組織生涯学習部の取り組みなどで意識向上を促し、毎年1ポイント上昇させる。 | | | | | | | | |

2. 基本事業の目的と指標

| 基本事業名 | 対象 | 意図 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|-----------|----|-----------------------|-------------------------|-----|----|------------------|------------------|-------------------|------|------|------|
| ① 学習機会の提供 | 市民 | 学習の機会を確保する。 | 市民大学講座・出前講座の回数、参加者数 | 回・人 | 実績 | 9・333 85・1687 | 9・316 62・1428 | 6・116 253・6646 | | | |
| ② 学習環境の充実 | 市民 | 充実した施設・設備を利用できるようにする。 | 生涯学習環境が整っていると感じている市民の割合 | % | 実績 | 46.7 | 38.9 | 43.1 | | | |
| ③ | | | | | 実績 | | | | | | |
| ④ | | | | | 実績 | | | | | | |
| ⑤ | | | | | 実績 | | | | | | |

3. 施策の役割分担と状況変化

| ① 役割分担 | 住民(事業所、地域、団体)の役割 | 行政(市、県、国)の役割 |
|--------|--|---|
| | ●自ら進んで学習に取り組む。 | ●市民の学習を支援するための積極的な情報提供など、学習環境の充実に努める。 |
| ② 状況変化 | A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○高度情報化社会の進展により、インターネットを利用した生涯学習の取り組みが増えている。 ○経済情勢など社会状況の変化が生活や心のゆとりの面から、住民の取り組み意識に影響する。 | B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○地域自主組織(交流センター)における生涯学習活動の確実な担保を市議会から求められている。 |

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

| 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準) | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 | 背景・要因 ○H23年度県政世論調査によると、島根県全体の生涯学習に取り組んでいる人の割合は、30.5%であり、雲南市は34.2%と、やや高い水準にある。 |

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《24 生涯学習の推進》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

| 時系列での比較(成果水準の推移) | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | 背景・要因 ○生涯学習活動を行っている市民は、前年に比べると約5%減少しているが、H21年度から比較すると概ね横ばいと判断する。これは、H22年度については交流センターの発足による増加が考えられる。 |

5. 施策の振り返り評価

| 施策の目標達成度 (前年度の成果指標値に対する実績値の達成度) | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった | 背景・要因 ○生涯学習を行っている市民の割合は、目標値には1.8%達していないが、概ね目標値どおりと判断する。 |

| 基本事業 | 取り組んだ事務事業の総括 (事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業) |
|-----------|---|
| ① 学習機会の提供 | ・派遣社会教育主事による社会教育コーディネーターの指導支援により、地域との連携推進を図る人材の育成に寄与することができた。 ・地域自主組織で行う生涯学習活動に対し、地域づくり担当職員の支援や、交付金の交付により支援を行った。・国際文化交流会事業では、小中学生を対象とした英語スピーチコンテストや早稲田大学留学生の受け入れ等を行い、国際的視野をもつ市民への学習機会の提供に役立った。 |
| ② 学習環境の充実 | ・図書館業務を委託したことにより、文化施設等との連携も生まれ、利用者の利便性が高くなり、サービスが向上した。 ・木次図書館の太陽光発電システム及びLED照明化により、利用者への環境教育を行った。 |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

| 区分 | 今後の課題 | 次年度の方針(案) |
|------|--|---|
| 施策 | ○学校・家庭・地域による学社連携、融合を推進していく必要がある。 ○地域自主組織との情報交換に努め、交流センターを拠点とする生涯学習活動を支援していく必要がある。 | ○学校・家庭・地域による学社連携、融合を推進していく。 ○地域自主組織との情報交換に努め、交流センターを拠点とする生涯学習活動を支援していく。 |
| 基本事業 | ① 学習機会の提供 | ○地域自主組織に対する情報の提供や人材育成を支援していく。 ○図書館の貸出冊数増加や利便性の向上につながるサービスの提供を目指していく。 |
| | ② 学習環境の充実 | ○交流センターなどの生涯学習施設を適正に管理していく必要がある。 ○地域自主組織などの生涯学習施設管理者との連携を図り、施設の状態を的確に把握する。 ○必要に応じて、計画的に修繕等を行っていく。 |
| | ③ | |
| | ④ | |
| | ⑤ | |